

港湾業務艇「みずなぎ」を活用した緊急物資輸送訓練の実施 ～「命のみなとネットワーク」形成に向けた取組～

北海道開発局 小樽開発建設部 小樽港湾事務所

国土交通省では、みなとの機能を最大限活用した災害対応のための物流・人流ネットワークとして、「命のみなとネットワーク」の形成に向けた取組を推進しています。

小樽開発建設部では、令和8年6月17日(水)に、北海道西部を震源とする大規模地震により国道5号(余市町～共和町区間)が通行不能となり、岩内方面への陸路輸送が困難となった状況を想定し、小樽港湾事務所の港湾業務艇「みずなぎ」を活用した緊急物資輸送訓練を実施しました。

訓練では、小樽港から岩内港まで飲料水やアルファ米等を想定した支援物資を海上輸送しました。7時46分に小樽港を出港し、積丹半島沿岸を航行して11時00分に岩内港へ到着、11時15分には岩内町役場へ物資を届けました。航行中は、神威岬通過時に衛星電話による状況報告を行い、災害時を想定した通信連絡体制の実効性についても確認しました。

訓練後には港湾管理者との合同海上施設点検を実施し、岸壁や防波堤等の港湾施設の状況を確認しました。

また、岩内港で給油ができない事態を想定し、復路で余市港に寄港して代替給油訓練を実施しました。余市港では係留場所や給油作業手順を確認し、約100Lの給油を5分程度で完了できることを確認しました。

当日は濃霧注意報が発令されていたものの、航行中の視界は良好で、波浪も穏やかな状況でした。一方で、視程障害が発生する可能性を考慮した運航計画の必要性や、神威岬周辺では岬を境に海象条件が変わるなど波浪の影響を改めて認識しました。

今回の訓練により、小樽港から岩内港への海上輸送ルートの有効性や通信連絡体制の実効性、さらには余市港を代替給油地として活用できることを確認しました。今後も訓練を継続し、船員の操船経験の蓄積、輸送経路上における避難港の検討、関係機関との連携強化等を進めることで、災害発生時における「命のみなとネットワーク」のさらなる強化を図ってまいります。



(往路)



(復路)

図-1 物資輸送訓練航路図



みずなぎ小樽港出港



訓練物資積載



神威岬沖航行



岩内港到着物資引渡し